

## 平成 29 年度 第 1 回 栄区傷害サーベイランス分科会 議事要旨

日 時	平成 30 年 1 月 15 日 (月) 14 時 00 分～15 時 00 分
場 所	栄区役所本館 4 階 1 号会議室
出席者	<b>【傷害サーベイランス分科会委員】</b> 田高座長 (横浜市立大学)、垣内委員 (東海大学)、木村委員 (健康福祉局)、 山崎委員 (栄消防署)、近藤委員 (栄警察署)、田中委員 (栄警察署)、 平間委員 (栄警察署)、近藤福祉保健センター長 <b>【傷害サーベイランス分科会事務局】</b> 雨堤区政推進課長、高橋企画調整係長、地主地域力推進担当係長、臺丸、石田 <b>【栄区役所】</b> 見上副区長、小泉総務課長

### 1 開会

#### <副区長挨拶要旨>

今回、区長が欠席となったこと、また前回の傷害サーベイランス分科会から間が空いてしまったことについて、大変申し訳ない。今回は、今後の分科会の方向性を委員の皆さまと共有する場としてサーベイランス分科会を開催した。昨年、サーベイランス分科会の今後の在り方について委員の皆さまにご相談した際、これからは実務チームを設け、データ分析を担当していただきたいという案をご了承いただいた。しかし、7月に実務チームの皆さまと打合せを行い、9月にセーフコミュニティ認証センターの事前指導を受けた結果、本審査までの短い期間の中で、まずは認証センターからの指摘をサーベイランス分科会の委員の皆さまと修正することを主眼に置くべきだと考えた。具体的な進め方については、後程事務局から説明する。委員の皆さまには、度重なるご説明により混乱を招き、大変申し訳ない。今年は再認証を迎える年となるので、何卒ご協力の程、よろしくお願い致します。

#### <田高座長挨拶要旨>

昨年9月の事前指導に参加したが、栄区のセーフコミュニティの取組内容については概ね肯定的に評価されたのではないかと。ただ、審査員が海外の方だということもあり、取組についてより分かりやすく示すことが重要だと感じた。

### 2 議事

#### (1) セーフコミュニティ事前指導の報告について

資料に沿って事務局から説明

#### <傷害サーベイランス分科会委員からの意見要旨>

特になし

#### (2) サーベイランス分科会の今後の進め方について

資料に沿って事務局から説明

< 傷害サーベイランス分科会委員からの意見要旨 >

○田高委員

・委員からの資料へのアドバイスに関する視点については、「視点① 根拠に基づいた取組になっているか」が特に重要。エビデンスのレベルについて何か指摘は無かったか。

(事務局)

・特になかった。逆に、エビデンスを評価してもらった分科会があったので、その情報については後で共有したい。

(近藤センター長)

・エビデンスが不十分な例として、交通安全対策分科会では、車の速度が減になったことがけが予防にどのようにつながるのかを示す必要があると言われた。どの分科会でも同様の指摘があったかと思う。

### (3) 再認証までのスケジュールについて

資料に沿って事務局から説明

< 傷害サーベイランス分科会委員からの意見要旨 >

○田高委員

・3月23日の資料最終提出期限までのスケジュールが重要。事務局には、委員と各分科会間の橋渡しをお願いしたい。取組の整理と必要なエビデンスについての共有をする必要がある。例えば、児童虐待予防には地域のつながりが必要だと日本では言われているが、海外の審査員にプレゼンテーションするためにはもう少し説明が必要。

(近藤センター長)

・事前指導では、スポーツ安全対策分科会で行っている限定的な集団へのアンケートなどについて、審査員から疑問に思われることがあった。アンケートを実施している場合は、対象についての説明も必要だと感じる。説明を明確にしてストーリーを作るという点について、先生方にはアドバイスをいただきたい。

○垣内委員

・防犯対策分科会の部分で説明があった **Safety** と **Security** の違いについては指摘として最もだが、うまく説明すれば納得してもらえらると思う。論文だけでなく行政データにも重要なものが多いので、そういったものも利用できれば良いのではないか。

○田高委員

・データセットがあれば多少は委員が解析・加工をすることができると思う。防犯対策分科会で指摘されている振り込め詐欺などについては、被害にあった方のその後の二次被害についても言及できると良いのでは。

(近藤センター長)

・振り込め詐欺で言うと、現在は件数のみ追っていて、その内容までは追うことができていない。そういった部分についてもアドバイスをいただければと思う。現在は本審査まで時間がなく、できることが限られているが、次期に向けての方向性を考え方が整理できれば良い。

○垣内委員

・オープンになっていない警察データ・消防データをいかにうまく活用できるかが将来的には重要になると思う。

○山崎委員

・消防で取り扱っている救急搬送データを見ると、現在、セーフコミュニティなどでたくさんの予防の取組を行っているにもかかわらず、高齢者の転倒がどんどん増えている。そういったものについては、取組を行っていても成果をエビデンスとして表すことができない。そのような事例について、他都市はどのように示しているのか。

(事務局)

・セーフコミュニティの取組においては、必ずしも結果が出なくても、取組を続けていくことが重視されている。

(見上副区長)

・栄区では高齢化が進んでいるため、高齢者の転倒については人口構成等も含めて解釈していく必要がある。

○垣内委員

・成果とは何か、ということだと思う。救急搬送件数が増えているから成果が出ていないということではなく、人口構成等の背景となる要素を取り除いた上での成果を示す必要がある。

○近藤委員

・警察統計については、例えば交通事故の件数等について、短いスパンではなく、長いスパンで見た成果を示すことができればと思う。長いスパンで見ると、交通事故件数は減っている。

○木村委員

・成果を示す上で、データの有無に見当がつく部分とそうではない部分があるので、早めに探すことができればと思う。